

#### 領域4 インフォーマルミーティング (3月19日 12:30-13:30 会場 TA)

代表: 小宮山進 (東大総合) (~2007.9)

副代表: 樽茶清吾 (東大物工) (~2007.9)

世話人: 越野幹人(東工大)、山口真澄(NTT 物性基礎)、土家琢磨(北大工)(~2007.4)  
林稔晶(NTT 物性基礎)、小林研介(京大化研) (~2007.10)

#### [報告事項]

##### 1. 領域委員会・プログラム小委員会: 2006年11月21日

- 春の学会の企画について  
推薦した招待講演2件、企画講演1件、シンポジウム(領域6,4,8,9,3合同)1件のうち、企画講演1件を除いて採択された。
- 複数の領域から、企画提案を行う際の位置づけや、提案時の注意点が明確でないとの指摘があり、明確化した案を作成した。(添付資料「企画提案について」)

##### 反省点

(i) 企画提案が満たすべき条件が十分領域メンバーに徹底していない印象があった。情報の徹底不足だけでなく、もともと基準が曖昧だったことが大きい。領域HPに明確化した基準(案)をアップロードしたので、今後積極的に提案を呼びかけたい。

(ii) 従来から提案件数が少ない問題がある。企画講演やシンポジウムの枠を有効に使うためには、それなりの準備期間が必要。一般の会員からの提案に任せるだけではなかなか難しいだろう。今後は、意味ある企画講演やシンポジウムの計画を領域世話人の半ば義務と考えたらどうか。 審議事項

##### 2. 臨時領域委員会: 2007年1月9日

議題(実際には時間のため以下の1のみ主に議論)

1. 2007年次大会における領域レビューセッションの提案と議論
2. 若手奨励賞に関する補足説明
3. (主として物性領域で)領域制のあり方についての議論

「物理学会領域レビューセッションに関する覚え書き(2006.12.14 早川尚男)」(添付資料)に基づいてレビューセッションを導入する提案があった。

領域4は、あらかじめ前・現・次期代表間で意見交換。

会議での議論により、当初提案を修正した以下の形態で、2007年秋の学会でレビュー講演を試行的に導入することが決まった。

素粒子・原子核で3(or 2)名、物性全域で3(or 4)名程度のレビュアーを予定。  
領域横断性、および物理全分野の修士学生に理解可能であること。

分野の異なるシニア研究者にとっても興味深いものであること。  
(専門用語を避け、使用する場合は十分説明に時間を割く。)  
聴衆確保のために一般講演とはパラレルにしない。  
レビュー講演同士はパラレルとなる見込み。  
時間的に総合講演との並存は無理。むしろ総合講演の発展形と考える。  
1 講演あたり 30 分から 60 分(未定)  
講演時間・講演数・パラレルの数は使用可能な会場に関係する。

- ・ 以下のレビューセッション世話人が具体案を検討継続中  
素核宇ビーム領域：糸山浩司、三明康郎、梶田隆章  
物性領域：前野悦輝、甲斐昌一、馬越健次、江尻有郷

### 3. プログラム編成会議(2006.12.13)

領域4から3名の世話人(山口・林・越野)が出席。他世話人はメール交換で協力作業。

学会からの世話人への依頼:

各世話人は事前にプログラム順を考えるなど、会議当日はできる限り少ない人数の出席で作業が行えるようにご準備ください。各領域世話人定数の半数~2/3程度の人数の方が出席するようにご調整ください。

### 4. 若手奨励賞

領域4では2006年6月頃まで独自案を検討。その後、物性領域で統一的な案の検討が進み、統一案に合流。2006.9(学会 千葉)インフォーマルミーティングにて授賞規定案及び細則案を検討し決定。

- 第1回若手奨励賞の募集(開始2006年12月5日、締め切り2007年2月16日)を行った。順調に行けば受賞講演が2007年秋の年会(北海道)に行われる予定。
- 第2回以後の募集も各年会の約10ヶ月前となる。従って、第2回若手奨励賞の募集期間は2007年6月8月の見込み。

### 5. 領域4メーリングリスト(jps-semicon@appi.keio.ac.jp)への参加呼びかけ

学会に関する各種情報や意見の交換が行われますので、学生も含め、是非登録をお願いします。メーリングリストとその登録に関しては、領域4のWeb(<http://div.jps.or.jp/r4/index.html>)をご覧ください。

## 審議事項

### 1. 次期領域代表・副代表の選出（任期 2007 年 10 月～ 2008 年 9 月）

候補者：代表 樽茶清吾（東大物工）

副代表 江藤 幹雄（慶大理工）

### 2. 次期・次時期世話人の紹介

2007,5～2008,4 熊田倫雄（NTT 物性基礎研） 今中康貴（物材機構） 古賀貴亮（北大工）

2007,11～2008,10 秋山英文氏（物性研） 河野行雄（理化学研究所）

### 3. 世話人の担当

(i) HP 担当およびメーリングリスト管理、後日、世話人間の相談で決める。

(ii) 企画提案について

学会活性化のためには、良い企画をだすことが重要である。領域代表より、そのために世話人（プラス領域表・副代表）がなるべく任期最後の学会でなんらかの企画（シンポジウムや企画講演）を提案する慣例を作ったらどうか。との提案があった。

一般会員全員の意識を高める事も重要であり、「企画提案は世話人に任せればよい」という意識に陥らないように注意すべきだとの意見が出された。しかし、魅力的な企画提案を考えるためにはそれなりの意識と準備期間が必要であり、一般会員の意識を高めるためにも、言葉で呼びかけるだけでは実効があまり期待できない中で、まずは世話人が率先して魅力的な提案を出すよう努力するという提案の基本的考えには同意が得られた。

企画提案の全て（招待講演、シンポジウム、企画講演）を世話人の責任と考える必要は無く、シンポジウムなら一つ提案できれば良いのではないだろうか。最終期の世話人（2, 3 人）が時期的に余裕を持って相談を開始し、直結した分野のまわりにも視野を少し広げ、外部の関係者からも積極的に意見を求めてアイデアを練ったらどうだろうか。若い世話人から相談を受ければ、シニア研究者は喜んで知恵を貸そうと思われる。

概ね、以上のような点で合意が得られた。参考のために、今後の学会でそれぞれ任期の最終を迎える世話人のリストは以下の通りである。（2007 年秋のための提案申し込みは時期が迫っているので難しいかも知れない。）

2007 年秋学会：林稔晶（NTT 物性基礎） 小林研介（京大化研）

2008 年春学会：熊田倫雄（NTT 物性基礎研） 今中康貴（物材機構） 古賀貴亮（北大工）

2008 年秋学会：秋山英文氏（物性研） 河野行雄（理化学研究所）

以上

## 添付資料

### 物理学会領域レビューセッションに関する覚え書き(2006.12.14 早川尚男)

日本物理学会理事会では 61 期理事高部英明氏を委員長とした大会活性化ワーキンググループの提言を受け、その提言の一つである領域レビューセッションの開催を検討している。以下で提案内容（鹿児島副会長のメモに早川が加筆訂正）をまとめる。

(0) セッション責任者 日本物理学会理事会

(1) 提案の経緯

日本物理学会理事会では 2006 年秋季大会千葉大会会場で「大会の開催方式についてのアンケート」を行った。その結果「全領域のレビューセッション開催」は、いくつかの懸念は指摘されているものの、過半数の賛成を得ており、とりわけ若い世代の期待が大きいことが判明した。懸念事項については、試行する中で見通しが得られると考えられるので、実行上の大きい支障がない限り、2007 年秋の北大大会で試行することを提案する。

その次の 2008 年春の近畿大大会では、数学会との連携セッションを計画しており、物理学会から 5 + 1 のレビュー講演を出す予定である（数学会からは 4 + 1）。この連携セッションは領域レビューセッションとほぼ同じ思想に基づいており、同一大会での 2 つのレビューセッションは過多である。従って 2008 年年次大会では実施しない。

2009 年度以降の実施については 2007 年度のレビューセッションでのアンケート結果から判断する。

(2) 試行形態

(a) (年次大会の) 初日と最終日に、終日セッションを設定する。したがって、他のセッションと平行となる。これは、2 日目、3 日目はシンポジウムの設定が多く、大教室が必要であることを反映している。今回は試行なので、従来型のシンポジウムを優先したい。

(b) 全領域が一つずつ講演することが適切かどうかについては、判断に苦しむ。実際、領域数は 19 なので、全領域から発表するとなると 1 日で実施できない。しかし、特に物性領域をどうまとめるのかについて妙案はないので原案としては各領域一つずつ 30 分講演を行うとする。その場合は 1 日 13 講演程度が可能。

(c) 全領域で実施した場合、1 日目を全て物性領域(13 講演)、4 日目を素核宇領域(6)とするのか、1 日目に物性領域の 1-10 とし、4 日目に物性領域の 11-13 と素核宇とするのか 2 案があるが、北大の大会で 9 時から発表する領域は大きなハンディがあるので後者を原案とする。

(d) 期待される講演像

物理の修士2年（全分野）を念頭に置き、広範囲の紹介から始めて、最後は講演者の最新の研究に言及する。ウェートの置き方は、もちろん、講演者が決める。

なおそれぞれの講演は基本的には「領域」の最近のレビューであると考えられるが、次の二つの理由で、必ずしもそうでなくてもよいとも考えられる。

（A）領域全体を俯瞰するための負担が過大であっては講演者が続かない。

（B）講演者が「領域の広報隊」となるようでは、懸念されている領域の「固定化」「人間集団化」につながりかねない。

したがって、その時々々の領域の範囲を考慮に入れつつも、それにとらわれない範囲を設定して講演を準備していただくのが良いのではないかと思う。

### （3）領域委員会での議論の目的

今回の臨時領域委員会では、そもそも領域レビューセッションが可能なのか、必要なのかを全領域代表の意見を広く集めて議論し、賛同が得られれば実施する。また実施する場合においても、どの領域が講演するか、領域合同で講演するか等について率直な意見交換を行う。時間がないので恐縮であるが、領域内で領域委員会開催前に簡単な意見交換を行っておくのが望ましい。

### （4）準備方法

領域委員会で講演を引き受けた領域は、領域内で適切な講演と講演者を検討する（春の大会のIMで決定するのがちょうどよい）。4月末までに講演者と題目を決定し、通常のシンポジウム講演と同様に領域代表が申し込みを行う。その結果を5月の領域会議で検討し、承認する。講演概要についてはシンポジウム講演に準ずる。概要集は（若手奨励賞と一緒にした）分冊を販売するか、全概要集に掲載するかを検討中である。

### （5）その他

（1）で述べたことを可能にするために会場で聴講者・講演者アンケートを実施する。その内容を吟味して、2009年度年次大会以後の開催の可否を検討する

以上